

第669回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2025年1月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

ふるさとWishスペシャル

「Discover! 北九州～未来を紡ぐ街～」

放送日時：2024年12月7日(土) 10:30～11:30

◇ その他

2025年1月20日(月)開催

九州朝日放送株式会社

## 第669回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年1月20日(月) 15時25分～16時30分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	上野	恵梨奈
副委員長	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	森	慎二
委員	泗水	康信
委員	林田	真心子

欠席委員数 0名

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
取締役 報道制作局長	大迫	順平
執行役員 総合編成局長	柴田	高宏
地域プロデュース本部 副本部長「ふるさと Wish」GP	比良	進吾
報道制作局 コンテンツ戦略部長	山田	利宣
KBCM○○○V 番組プロデューサー	中原	幸子
番組審議会事務局長兼広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局(広報室)	松永	俊郎

#### 4. 議題

- (1) テレビ番組 ふるさと Wish スペシャル「Discover! 北九州～未来を紡ぐ街～」  
放送日時：2024年12月7日(土)10:30～11:30
- (2) 2025年1月・2月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2024年11月・12月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 最近の北九州市の取り組みがコンパクトに表現されていた。北九州市にゆかりがある人でも知らないことが多く紹介されていたので新鮮味があった。ポテンシャルの高さを再発見した。
- 洋上風力発電、おいしい給食大作戦、宇宙産業、フードロス対策、若松区の観光地化など、全て「北九州市の未来」を具体的に想定させるもので見ていてウキウキした。
- 学生や子どもが見れば、夢や目標につながるような情報がたくさん紹介されていた。
- 最近、メディアを通じて北九州市の情報が表に出てくるが増え、情報が散らばっている印象を受けていたが、今回の番組ではそれらの情報が分かりやすくまとめられていた。
- かつての北九州市は環境汚染が激しく住みやすい町ではなかったが、環境都市として再生を果たし、環境に優しいクリーンで住みやすい都市に生まれ変わったことを知ることができた。
- 九州工業大学の宇宙分野での実績はあまり知られておらず、「地元こんな大学があるんだ」と関心高く見ることができた。宇宙ビジネスは「ものづくりの街」北九州市にふさわしい。
- 北九州市の武内和久市長やいろいろなプロジェクトのキーマンの出演が多くあったので臨場感をもって伝わった。
- アナウンサー陣のレポートが自然かつ表情豊かで引き込まれるように視聴した。
- 「ふるさと Wish」の目的である「地域らしさを見つけ出す。まだ、フォーカスされていない素晴らしさを探し出す」に合致した番組だった。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 若松北海岸エリアがどのように再開発されていくのか、日本を代表するオーシャンリゾート構想とはどのようなものなのか、もう少し具体的に教えてほしかった。
- 洋上風力発電の話題は大きさをイメージすることができなかった。また、危険な取材で安全確保に問題がなかったのか気になった。アナウンサーに無理をさせているように感じた。
- どの話題も魅力的だったので、それぞれを紹介する尺が少し短いように感じた。北九州市で取り組みが進められる理由や地域の特性などをもう一步踏み込んで取材してほしかった。

- 北九州市や市長の意向、要望がどの程度反映されているのか気になった。また、それぞれの話題を少し客観的に紹介した方が北九州市の取り組みが際立ったのではないか。
- 大きな自治体でないと特番として扱うには厳しいと思うが、北九州市以外の地域も特番化する可能性はあるのか。取り上げるなら、どんなことを判断基準にするのか知りたい。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 地域共創プロジェクト「ふるさと Wish」には核となる番組がない。いろいろな番組で自治体の魅力を伝えているが、「もう少し深掘りしてほしい」という要望もあったので、トライアルとして北九州市に焦点を当てた1時間の特番を制作した。
- 北九州市には公害問題を克服した歴史がある一方で、人口の減少傾向が続いている。市長が代わり、新たな町づくりが進むいま、その方向性やビジョンを深掘りする目的で制作した。
- 60分番組で取り扱う話題は5つが限界だったが、洋上風力発電のブロックがやや長くなってしまったので、他の話題がやや消化不良で終わったかもしれない。
- 洋上風力発電の場面は、ロケの前に安全講習を受け万全を期して撮影に挑んだ。アナウンサーに無理をさせているように映ったかもしれないが安全性は十分に確保していた。
- 若松北海岸エリアは規制緩和がからむ話だったので情報を十分に出せない事情があった。洋上風力発電もまだ建設途上で規模を十分に感じてもらう映像を撮影できなかった。
- 取材内容の話し合いに予想以上の時間を費やしてしまい、取材期間が短くなってしまった。各コーナーで根拠データや客観性を盛り込めなかったのは反省点。
- 北九州市にヒアリングして話題を提供してもらったが、構成や切り口はあくまでもKBCが主導した。話題のチョイスは「映像化できるかどうか」を基準とした。北九州市以外の視聴者が見ても楽しめるように工夫した。
- 自治体が目指す方向を伝えることが第一の目的ではあったものの、ワクワク感を感じてもらうように演出した場面が少し趣旨から離れているように見えたかもしれない。
- 北九州市以外でも伝える意義がある自治体は必ずある。一つの自治体では話題が不足するのであれば、いくつかの自治体をまとめて扱う手法もある。「なぜ、いま伝えるのか」の判断基準を軸に今後も番組制作を続けたい。

などの説明をしました。